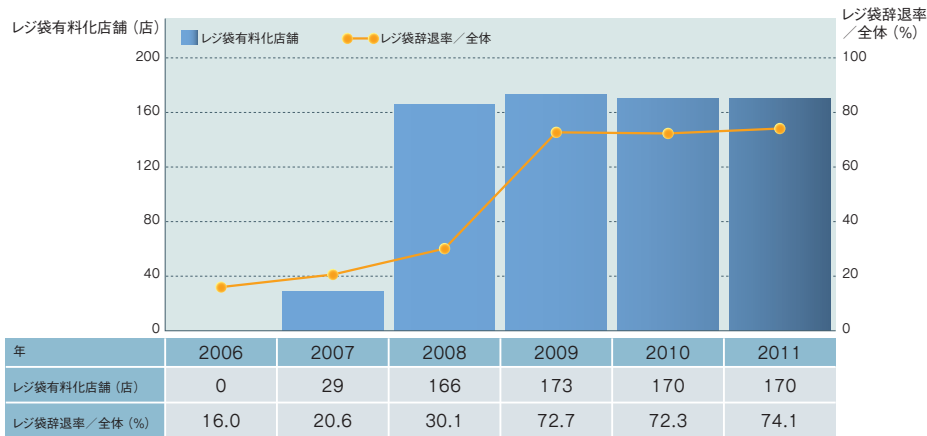


レジ袋有料化店舗拡大と辞退率向上



地域環境活動に寄付

レジ袋を無料配布しない地域では、1枚5円で販売しています。購入していただいたレジ袋1枚につき1円を地域の環境活動に寄付しています。

■2011年度実績

93市町 173店舗 24,022,496円



レジ袋表彰 (白山市 松任店臼井店長)

レジ袋削減のための取り組み

■お買い物袋持参運動開始

1989年に愛知県一宮市で「使用済みのレジ袋を再び使用しよう」という、お買い物袋持参運動を開始しました。



お買い物袋持参運動の説明を受ける従業員 (1989年11月、サンテラス一宮店)

■マイバッグキャンペーン

2001年からは「何度も使えるレジ袋代わりのマイバッグ」をスタンプカードと交換で差し上げるマイバッグキャンペーンを始めました。



■レジ袋の無料配布中止

名古屋市緑区で、他のスーパーと一緒に有料化を進めました。市民や市の職員も一緒にキャンペーン活動をしました。



名古屋市緑区アピタ鳴海店

トレイを使わない販売へのチャレンジ

レジ袋の削減が進み、次に取り組む容器包装削減に食品トレイを取り上げました。精肉や鮮魚、惣菜などの販売に使用していますが、食品トレイはポリスチレン樹脂を発泡させた薄板をトレイ状に形成したもので、水に強く保冷性があり生鮮食品の容器包装に適しています。ところが、最近食品レジ近くのゴミ箱に、中身を出した後の食品トレイが捨てられていることが多くなってきました。そこで食品トレイを使わない販売を継続的に実践して、お客様からのご意見や売り場の声を聞きながら、使用削減にチャレンジすることになりました。

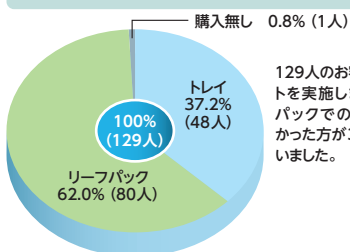
2008年に名古屋市アピタ千代田橋店精肉売り場で、ポリ袋を使った販売を実験し、2011年春には名古屋市ピアゴ清水山店でリーフパック (紙シートにラップを使った包装) で実験を行いました。今年は名古屋市緑区のアピタ緑店でリーフパック商品を継続的に販売しています。

トレイを使わない販売について、トレイ使用商品とリーフパック商品を購入されたお客様にアンケートを行い、お客様からの意見を聞きました。また、この販売には、リーフパックのメリットや環境配慮へのメッセージをPOPやポスターにして売り場に掲示し、その効果も検証しました。このPOPやポスターは「お買い物革命」のリサーチャーズの皆さんに作成していただきました。

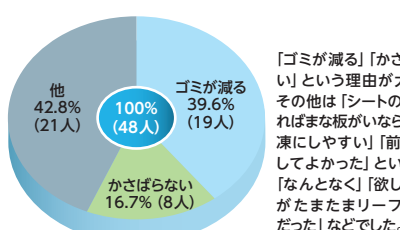


リーフパック売り場

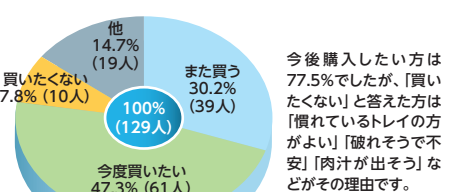
「どちらの商品を購入しましたか？」



リーフパック商品を購入した方へ「どうして購入しましたか？」



全員に「今後リーフパック商品を購入したいですか？」



※2011年11月27日～2012年2月4日 アピタ緑店

マイボトルキャンペーン

レジ袋以外の容器包装の削減のもう一つの提案が、「マイボトルを持つライフスタイル」です。

2011年環境省の事業に横浜市が参加し、ユニーでは学生が多いアピタ戸塚店に給水機を設置し、いつでもマイボトルに給水できるサービスを行っています。また、キャンペーンにはモニター300名を募集し、eco!onオリジナルボトルを提供し、エコライフスタイルにチャレンジしていただきました。



給水機



モニター募集